

東に聞ゆる出羽みちの國も昔は六十六郡が一國なりしを十二郡にさきわかつて後、出羽の國とは立てられたるなり。されば實方の中將、おうおうへながされし時、當國の名所あこやの松をみんとて國の内を尋ねまはるにもとめかねてすでにむなしいう歸らんとしけるが道にてある老おうに行きあたり、中將や、御へんはふるい人とこそ見れ、當國の名所あこやの松といふ所や、知りたるととふに、まつたく國の内には候はず、出羽の國にぞ候らんと申ければ、さては汝も知らざりけり、今は世すへになりて國の名所をもはや、皆よび失ひけるにこそとて、すでにすぎんとし給へば老おう中將の袖をひかへて、あはれ君は、

みちのくのあこやの松に木隠て出べき月の出もやらぬか、といふ歌の心をもつて、當國の名所あこやの松とは御尋候か、それは昔兩國が一國なりし時、詠み侍りし歌なり、十二郡さきわかつて後は、出羽の國にぞ候らんと申ければ、さらばとて實方の中將も、出羽の國にこへてこそあこやの松をば見てければ。○下略

〔神皇正統記後醍醐〕ちかき代のことぞかし頼朝の時までも、文治のころにや奥の泰衡を追討しに身づからむかふことありしに平の重忠が、先陣にてその功すぐれたりければ、五十四郡の中いづくをも望むべかりけるに、長岡の郡とて、きはめたる少きところをのぞみたまはりけるとぞ、

〔太平記十九〕奥州國司顯家卿上洛并新田德壽丸上洛ノ事

奥州ノ國司北畠源中納言顯家卿、去元弘三年正月ニ、園城寺合戦ノ時上洛セラレテ、義貞ニ力ヲ加ヘ、尊氏卿ヲ西海ニ漂ハセシ、無雙ノ大功也トテ、鎮守府ノ將軍ニ成シテ、又奥州ヘゾ下サレケル。○中略顯家卿時ヲ得タリト悅テ、廻文ヲ以テ便宜ノ輩ヲ催サル、ニ、結城上野入道道忠ヲ始トシテ、伊達信夫、南部下山六千餘騎ニテ馳加ル、國司則其勢ヲ并テ、三萬餘騎、白川ノ關へ打越給ニ、